



米国株 MARKET PICK UP



先週の米国株式市場—世界同時株安の様相強まり反落—

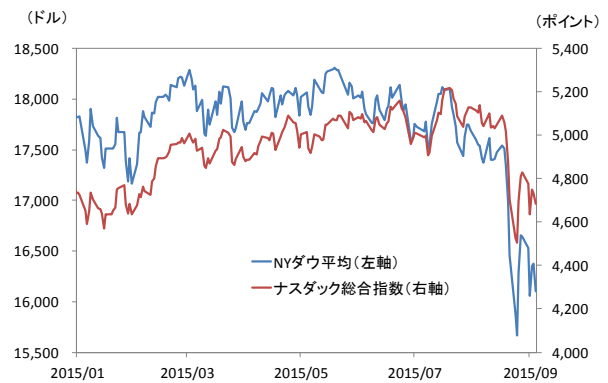
	前週終値	8月31日	9月1日	9月2日	9月3日	9月4日	週間騰落幅	週間騰落率
ダウ平均	16,643.01	16,528.03	16,058.35	16,351.38	16,374.76	16,102.38	-540.63	-3.25%
騰落幅		-114.98	-469.68	+293.03	+23.38	-272.38		
S&P500	1,988.87	1,972.18	1,913.85	1,948.86	1,951.13	1,921.22	-67.65	-3.40%
騰落幅		-16.69	-58.33	+35.01	+2.27	-29.91		
ナスダック総合指数	4,828.32	4,776.51	4,636.10	4,749.98	4,733.50	4,683.92	-144.40	-2.99%
騰落幅		-51.81	-140.41	+113.88	-16.48	-49.58		

＜先週の概況＞

先週の米国株式市場はダウ平均が週間で540ドル安と大幅に反落しました。

9月1日に日本株、欧州株とも大幅に下落し世界同時株安の様相が再び強まって、米国株も大きく下落しました。週の半ばには中国株の下げ渋りを受けて反発しましたが、4日に発表された雇用統計が概ね好内容で9月の利上げ開始が改めて意識されたことで、反落しました。

NYダウ平均とナスダック総合指数の推移



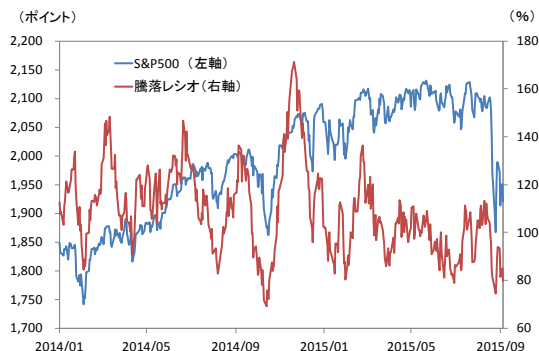
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

米国株式市場バリュエーション

指数	予想PER (倍)	PBR (倍)	予想配当利回り
ダウ平均	14.7	2.8	2.7%
S&P500	16.2	2.6	2.3%
ナスダック総合指数	20.4	3.3	1.3%

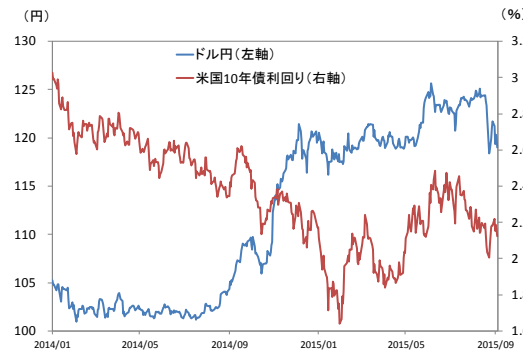
(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成 (2015年9月4日時点)

S&P500と騰落レシオの推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

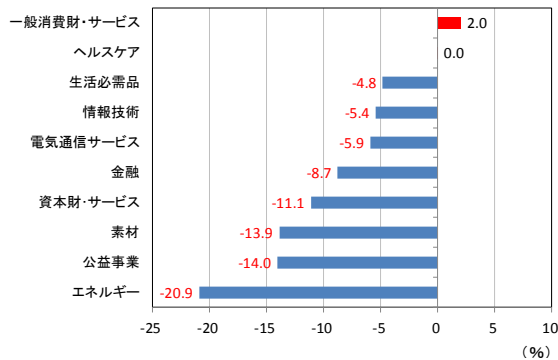
ドル円と米国長期金利の推移



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

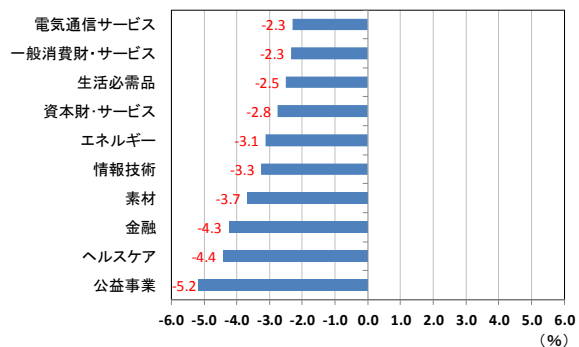
業種別リターン

S&P500 業種別年初来リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

S&P500 業種別週間リターン



(出所) Bloombergのデータをもとにマネックス証券作成

ダウ平均採用銘柄 週間騰落率ランキング

値上がり率ランキング (8/31-9/4)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
INTC	インテル	0.4

(出所) マネックス証券作成

値下がり率ランキング (8/31-9/4)

ティッカー	銘柄名	週間騰落率 (%)
MRK	メルク	-6.8
DD	イー・アイ・デュボン・ドゥ・ヌムール	-6.3
CVX	シェvron	-4.7
GE	ゼネラル・エレクトリック	-4.6
V	Visa	-4.6
UNH	ユナイテッドヘルス・グループ	-4.2
JPM	JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー	-4.1
JNJ	ジョンソン・エンド・ジョンソン	-4.1
PFE	ファイザー	-3.9
GS	ゴールドマン・サックス・グループ	-3.9

(出所) マネックス証券作成

<上昇>

ダウ平均採用の 30 銘柄中、上昇はインテル (INTC) 1 銘柄にとどまり、残る 29 銘柄が売られました。インテル (INTC) はウィンドウズ 10 に最適とされる新型プロセッサを発売したことで、今後の業績拡大期待が高まり堅調でした。

<下落>

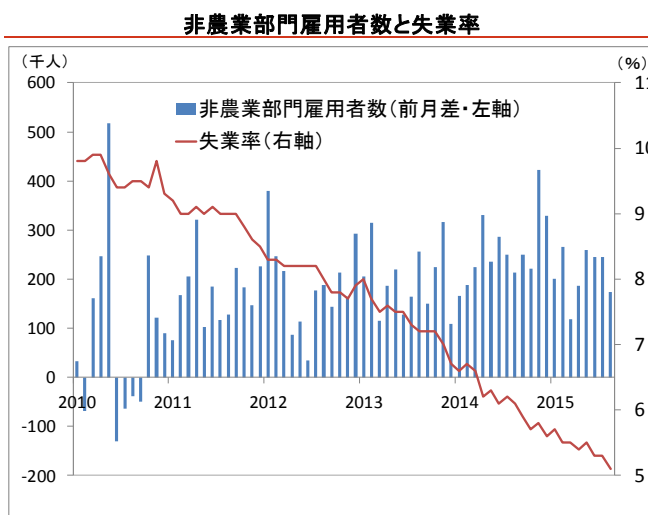
リスクオフムードが強まり、幅広い銘柄が売られました。マクドナルド (MCD)、コカコーラ (KO) など消費財関連は比較的小幅な下げにとどまっています。

先週発表された主な経済指標

非農業部門雇用者数（前月差） 8月 +17.3万人 市場予想 +21.7万人 7月+24.5万人
 失業率 8月 5.1% 市場予想 5.2% 7月 5.3%

8月分の米国雇用統計は、非農業部門雇用者数が前月差 17.3 万人増と市場予想を下回りました。6 月分は 23.1 万人増→24.5 万人増、7 月分は 21.5 万人増→24.5 万人増とそれぞれ上方修正されました。また、失業率は前月の 5.3%→5.1%に改善しました。

8 月分の非農業部門雇用者数は市場予想を下回ったものの、過去分が上方修正され、失業率も改善したことから、概して堅調な内容の雇用統計でした。



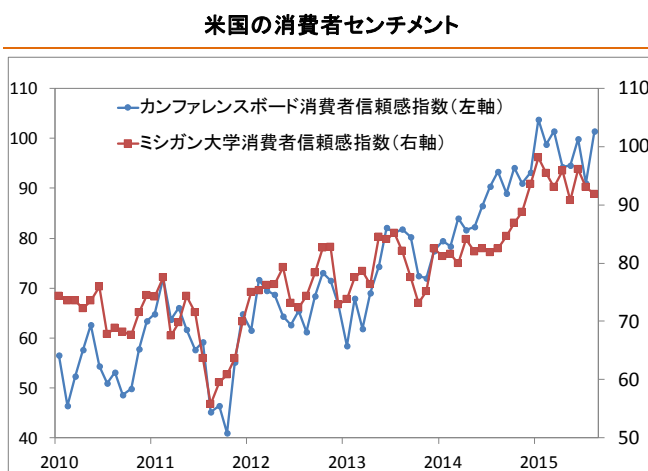
(出所)マネックス証券作成

今後発表される主な経済指標

9月 ミシガン大学消費者態度指数・速報値

今週（9月7日の週）は注目度の高い経済指標の発表は比較的少ない週ですが、11日に9月のミシガン大学消費者信頼感指数の速報値が発表されます。

米国の消費者センチメントは足下まで堅調に推移していますが、株価の大幅調整を受け、センチメントの悪化が起きているのが注目されます。



(出所)マネックス証券作成

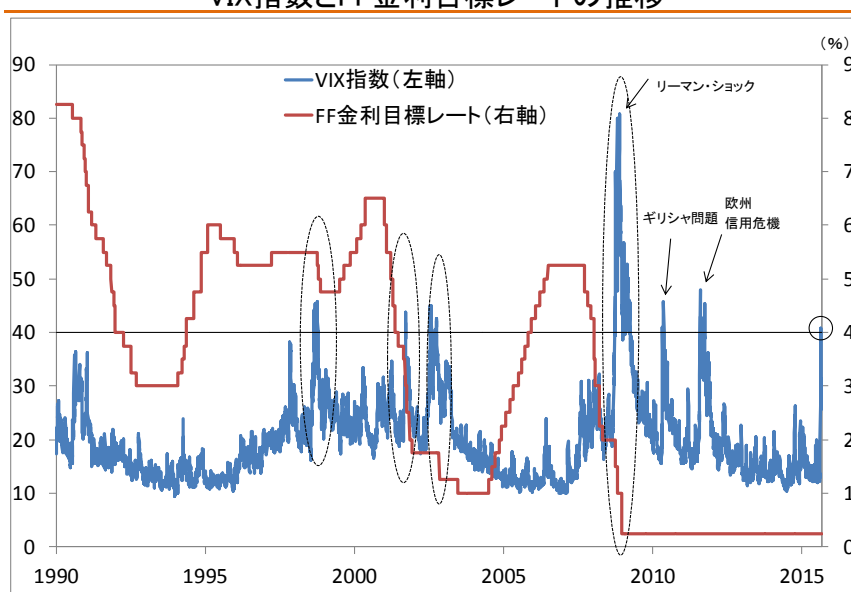
マーケットビューー—9月利上げの可能性は低い—

先週発表された雇用統計は9月利上げ開始の可能性を残す堅調な内容でした。ただ、それでも筆者は9月の利上げ開始は行われないと見ています。その理由は足下のマーケットの混乱です。グラフに示したのは、S&P500のボラティリティ・インデックス、「VIX指数」と米国のフェデラル・ファンド目標レートの1990年以降の推移です。VIX指数は別名「恐怖指数」とも呼ばれるように、マーケットの心理を表すとされます。同指数の平常時の水準は10-15程度であるが、8月24日に一時40を超え、足下でも28程度と高止まりしています。

グラフに示したように、VIX指数が40を超えるというのは、「リーマン・ショック」、「第1次ギリシャ危機」、「欧州信用危機」といった世界経済を揺るがすような大きな問題が発生したときの水準です。今回市場が何を怖れているのかははっきりとはしませんが、大きな混乱に見舞われているなかでFRBがあえて9月利上げにこだわる理由はないとみられます。

米国株は9月の利上げ見送りでいったんリバウンド基調となるも、本格的な上昇再開は利上げ開始後になる、そのように考えています。

VIX指数とFF金利目標レートの推移



(出所) Bloombergデータよりマネックス証券作成

フィナンシャル・インテリジェンス部 益嶋 裕

ご留意いただきたい事項

マネックス証券(以下当社)は、本レポートの内容につきその正確性や完全性について意見を表明し、また保証するものではありません。記載した情報、予想および判断は有価証券の購入、売却、デリバティブ取引、その他の取引を推奨し、勧誘するものではありません。当社が有価証券の価格の上昇又は下落について断定的判断を提供することはありません。

本レポートに掲載される内容は、コメント執筆時における筆者の見解・予測であり、当社の意見や予測をあらわすものではありません。また、提供する情報等は作成時現在のものであり、今後予告なしに変更又は削除されることがございます。

当画面でご案内している内容は、当社でお取扱している商品・サービス等に関連する場合がありますが、投資判断の参考となる情報の提供を目的としており、投資勧誘を目的として作成したものではありません。

当社は本レポートの内容に依拠してお客様が取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。投資にかかる最終決定は、お客様ご自身の判断と責任でなさるようお願いいたします。

本レポートの内容に関する一切の権利は当社にありますので、当社の事前の書面による了解なしに転用・複製・配布することはできません。

当社でお取引いただく際は、所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。お取引いただく各商品等には価格の変動・金利の変動・為替の変動等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、投資元本を割り込み、損失が生じるおそれがあります。信用取引、先物・オプション取引、外国為替証拠金取引をご利用いただく場合は、所定の保証金・証拠金をあらかじめいただく場合がございます。これらの取引には差し入れた保証金・証拠金(当初元本)を上回る損失が生じるおそれがあります。

なお、各商品毎の手数料等およびリスクなどの重要事項については、[「リスク・手数料などの重要事項に関する説明」](#)をよくお読みいただき、銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身のご判断で行ってください。

マネックス証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第165号
 加入協会: 日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会